

った。生残率については、日令4で56.8%、日令6で10.6%、日令10で1.1%に低下し、日令42における取り揚げ尾数は1,500尾、大きさは平均全長33.5mm、歩留りは0.1%の飼育結果であった。

今回の初期餌料にはマガキ幼生は使用せず、S型ワムシを選別し、小型ワムシ単独投与による飼育試験を初めて実施した。しかし、小型ワムシを大量選別するには1日当り300~500万個の量しか確保する事が出来ず、そのために適性餌料不足と被甲長平均120μ以下の小型ワムシを給餌しても翌日には被甲長平均150μ程度に成長することによって、摂餌することが不可能となり、大量減耗が生じたものと思われる。

選別ワムシ単独給餌により、低歩留りではあるが、飼育出来たことで今後はS型ワムシ選別方法の改良、ワムシ卵のみを大量採集する方法を検討することと、上記餌料とマガキ幼生の併用投餌による方法も併せて検討する必要がある。

IV-ハマフエフキ沖出し飼育試験

材料と方法

供試魚は当支場陸上水槽で生産されたものを使用した。生簀設置場所及び生簀枠は前年度と同様で、試験区は2区で実施した。生簀網は収容当初は1mm目ニップ網(2.7×2.7×3m)、3mmモジ網(3×3×3m)、5mmモジ網(3×3×3m)、10mmポリ網(3×3×3m)と魚体に応じて順次使用した。また、生簀網の外側を4.6cm目の網で囲い二重網とした。供試魚の輸送、計数方法も前年度とほぼ同様で7.0ℓポリ容器に収容して行なった。

餌料はムロアジミンチ、マダイ用初期飼料、マダイ用配合飼料、フィードオイル(3~5%添加)を使用した。沖出し後9日間の投餌は1日4回(7:00、10:00、14:00、18:00)実施しその後早朝投餌をやめ1日3回とした。また、沖出し前日より10日間は夜間懐中電灯を点灯し天然プランクトンの集収に努めた。

水温、塩分濃度は午前10時から午前11時の間に測定した。

結果と考察

飼育結果は表-5に示した。

飼育期間中の水温は26.5~33.0℃の範囲で、平均28.5℃であった。塩分濃度は2.8.5.0~3.4.1.2‰の範囲で、大雨のあった直後を除けば3.3‰前後であった。

表-5 飼育結果

区分	収 容			取 り 揚 げ				
	月 日	尾 数	平均全長	月 日	飼育日数	尾 数	平均全長	歩 留 り
1	5.27	6,000尾	14.8mm	7.12	46日	2,600尾	40.0mm	43.3%
2	"	6,800	"	8.25	90	1,408	108.0	20.7